

社会科 授業実践報告

小单元名 くらしと産業を変える情報通信技術

令和4年12月15日（木）第5校時
授業実践 第5学年1組

《本時の目標》

- ・今後の情報化社会で求められていることや、自分が情報化社会にどう参画していくかを考え、適切に表現することができる。（思考・判断・表現）
- ・これからの情報化社会を生きていくためにどのようなものが求められているのか意欲的に考えようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

深い学びポイント

1 つかむ	2 見通す	3 自力	4 協働	5 練り上げ	6 メタ認知
《授業展開の工夫》					
・資料を電子データで送り、すぐに共有したり、いつでも振り返ったりできるようにする					
・話し合いの際に取るべき立場や話し合う際に気をつける視点を明確に提示すると、					
《児童の変容》					
これからの情報化社会で自分がどう生きていけばよいかを自分事として考え、思考・判断・表現する姿がみられ、「深い学び」が実現されるであろう。					

深い学びに到達させる手立て1

資料や振り返りを電子データで保存し、繰り返しみたり、共有したりする。



これまで、どんな学習をしてきたのか、今までに配られたり自分で作ったりしたカードを見よう。



この資料をみると、ICTで暮らしは便利になったけれど、心配な部分も多いなあ。

単元を通して、中心資料や資料から読み取ったこと・考えたこと、学習のまとめなどを電子データで配布・作成・保存を行った。毎時間、既習を振り返る時間を確保し、データを根拠にしながら振り返る習慣をつけられるようにした。

また、自分の考えを整理整頓するために思考ツールを活用させることで、既習事項をもとに社会的事象に対する自分の意見やかかわり方について、一人ひとりが根拠をもって自分事として考えつつ、共通点・相違点を比較しながら話し合う相手を自分で選択するための目安として利用させた。

深い学びに到達させる手立て 2

思考ツールを活用し、交流活動を活発にする。



誰がどんな考えをもっているのかなあ。
あ、〇〇さんは私と似ているな。



私は ICT が発達したことで心配なことが多
いと感じましたが、みんなはどうですか？

深い学びに到達した姿

既習事項をもとに「ICT 技術の発達がくらしや産業に与えた影響」や「これからの情報化社会で求められていること」といった社会的事象に対する考えやかかわり方について自分事としてとらえて考えをまとめることができた。また、話し合いを通して社会的事象を多面的・多角的にとらえ直し、社会的事象に対する自分の考えを再構築して表現することができた。

指導講評

さいたま市教育委員会指導 1 課 主任指導主事 小林 孝太郎 先生

- 社会科のポイントである、①多角的な視点を与える②自分の考えを説明する③社会へのかかわり方を選択・判断する、という場面がきちんと設定されたしっかりとした構成の授業だった。
- 既習に立ち返るための適切なはたらきかけができていた。
- 思考ツールの使い方やモデリングの仕方がよく、考えを可視化するよさを生かしていた。
- 子どもたちが自分の考えについて自然に理由を記述する習慣がついているのがよかった。
- ICT のよさ（動かして妥当性を探ること）と紙のよさ（ちょっとした意見の表現などの細かい部分）を生かした展開の構成になっていた。
- 本時の課題（どんなことを考えればよいか）がはっきりせず、あいまいになってしまっている部分があった。

成果と課題

- ◎ 電子データによる資料配布や振り返り記述により、既習事項をもとに本時の課題についてじっくり考えながら自身の考えを表現させることができた。
- ◎ 本時で話し合う課題の視点を前時までの振り返りを通して積み重ねていったため、限られた時間の中でも児童一人ひとりが課題を自分事としてじっくり考え、表現できた。
- ◎ 思考ツールの活用で児童が自分の学びを整理整頓したり、多角的な視点で社会的事象についてとらえ直したりでき、お互いの共通点や相違点を見つけながらの活発な話し合いにつながった。
- △ 本時の課題が何なのか、あいまいなまま授業の前半が進行してしまった。
- △ 散らばっている児童の意見を全体交流の中で多角的な視点として共有するために、どこまで取り上げ、どのようにまとめていけばよいか、適切に判断するのが難しかった。